田舎の地域づくりフォーラム開催

自分たちで、居場所から見守りへ

広報
土山がニコリ
土山地域ご近所福祉推進協議会
第2号
令和2年3月発行

令和元年12月7日（土）にあいの土山文化ホールで、フォーラムを開催しました。区長、自治振興会、民生委員児童委員、福祉活動団体者等169名の多くのご参加をいただきました。

今回のフォーラムのテーマは「居場所と役割」。信楽地域の先進事例、そして土山地域における福祉活動事例として3地域の取り組み報告がありました。発表後には大谷大学志藤修史教授にコーディネート頂き、まとめのディスカッションが行われました。4つの地域の活動の特徴的な取り組みを紹介します。

①西健康福祉会

信楽地域　楠山禊子さん

「健やかサロン西寿」

65歳以上の居場所と見守りの場として、月2回の活動をしています。

「あそびの日」

憩いの家を開放し、茶話会、ゲーム、昼寝等、月6～7回の活動を行います。

「みんなの会（野菜塾）」

栽培した野菜を使って、みそづくり、キムチづくり、サロンでの昼食づくりを行います。収穫が多い時は、地域の方々に販売し、その中で、会話が生まれ、つながりができています。

「見守り訪問」

サロンに来られていない気になる方の訪問を行い、見守り会議では、他機関や専門職と情報共有を行っています。

西健康福祉会「あそびの日」

②西野区健康福祉会

鮎河学区　久保重衛さん

「ふれあいサロン」

みんなで寄って、しゃべり、笑うことを大切にしています。

「防災見守り会議」

一人暮らしの方や気になる方の様子を日頃からそっと見守っています。サロン終了後3ヶ月に一回の頻度で、役職に関わらず、サロン対象の高齢者も参加し、情報を共有し、地域マップ化（シールで色分け）を行います。

西野区健康福祉会「見守り会議」

③市場区健康福祉会

大野学区　前野光弘さん

「和輪サロン」

75歳以上の居場所でお出かけサロン、食事つきサロン（年6回）、誕生日会（3か月一回）テレビ体操、ゲーム等を月一回行います。

負担軽減のため民生委員をはじめ、区長、健康推進員等約20名のボランティアスタッフが、3つのチームに分けて、順番制にして行っています。

市場区健康福祉会「和輪サロン」

④おむすびの会

山内学区　林悦子さん

「おばあちゃん弁当」

文化祭でのおむすび作りから活動が始まりました。現在は、高齢者への弁当の宅配（2か月に一回約40食）を行い、顔を合わせることで安否確認を行います。

一人で決めずにみんなで相談しながら献立等を考え、無理をせず楽しく活動を行うように心掛けています。

「箱膳弁当でのおもてなし」

昔使っていた箱膳を復元し、他所からの来訪者に箱膳弁当で、おもてなしをしています。

おむすびの会「おばあちゃん弁当」

サロン活動から見守りに活動を広げ、さらに気になる方を専門職につなげるという信楽地域の西区、鮎河の西野区の活動。地域の役員だけでなく、たくさんのボランティアが支援する大野の市場区の活動。また、高齢者自らが運営する西区のサロン活動は、担い手の負担を軽くする方法の一つではないかと感じました。そして、おむすびの会のように、弁当作りという「役割」を持つことで生きがいに通じる活動を拝見しました。

活動を続けていくためには、ボランティア自身も楽しむこと、参加している高齢者にも協力してもらう等負担の少ない工夫が必要なようです。

今後、ますます必要とされる地域の福祉活動を持続していくためには、受け手側・支え手側の垣根を越えた発想の転換が必要な時期に来ているのではないでしょうか。

課題解決ネットワーク研修会

地域と福祉事業所がつながる、まずはできるところから！

令和元年11月21日（木）老人福祉センター　フィランソ土山において、「課題解決ネットワーク研修会」（主催：土山地域ご近所福祉推進協議会、ふくしマンパワーねっとこうか）を開催しました。

これは、土山地域の地域福祉推進関係者や福祉施設事業者等が一堂に会し、交流し、「地域は地域」「施設は施設」ではなく、お互いの力や強みを生かし、協働することによって誰もが共に生きる地域づくりを推進することを目的に開催したものです。

初めに土山地域ご近所福祉推進協議会から土山地域の「サロン活動」の現状と課題について報告があり、その後4つの福祉事業所から現在進めている地域交流の活動報告がありました。報告によると、福祉事業所は、現在、「高齢者サロン活動」、園児、児童、生徒との交流会、地域の催しへの参加など、地域との交流を進めておられます。特に、子どもたちとの交流活動は、どの事業所とも取り組まれ、子どもたちにとって、人間の持つ多様性を知り、今後の人格形成に大きく寄与するのではないかとの意見がありました。

福祉事業所からは「地域の皆様の集いの場を提供していきたい」「サロン活動に出向き、介護や食事の話が提供できる」などの意見があり、今後の福祉事業所とサロン活動など、地域との「交流」さらに、「協働」へのきっかけを見つける機会にもなりました。

研修会にご協力いただきました豊壽園、つちやま福祉作業所、るりこう園、エーデル土山のみなさま、ありがとうございました。

土山地域　防災講習会

～災害にも強い地域づくりを目指して～

令和元年11月20日（水）土山開発センター大集会室で「土山地域防災講習会」が開催されました。土山地域区長会、甲賀市防災士連絡会土山地域会の主催で当協議会も共催し、消防団や地域の防災関係の方も合わせて60名を超える参加となりました。

DVD鑑賞の後、「山中すずか防災会」（山内学区山中区）「あずま自主防災会」（土山学区南東区北東区）からの活動報告があり、参加者の皆様は、熱心に耳を傾けておられました。

近年、台風や集中豪雨、地震などによる災害が頻繁に発生しており、その犠牲者の多くは、高齢者や障がいのある方です。「土山地域ご近所福祉推進協議会」は、福祉を視点に高齢者や障がいのある方など「災害弱者」と呼ばれる方が犠牲にならないよう災害にも強い地域づくりを支援します。

サロンスタッフ研修・交流会

～熱意と笑顔で～

令和元年11月16日（土）老人福祉センターフィランソ土山において町内各サロンのスタッフのみなさまにお集まり頂きサロンスタッフ研修会を開催しました。当協議会で実施しましたサロンの実態調査を踏まえ、みなさまがご苦労されていること、日頃疑問に思われていること等の話し合いを行い、少しでも役立つ情報を共有することを目的に実施しました。

また、併せて、認知症について正しく理解していただく研修を実施しました。

各サロンの運営実態や、課題について情報交換し、課題の共有化、具体的な今後の取り組み等について話し合いました。時間を忘れるほどの活発なグループワークで、常日頃の皆様のご苦労や、思い、熱意が伝わってきました。

共通の課題として、①参加者の減少や固定化②担い手の不足③活用する施設が整っていない等があげられました。具体的な行動については①同世代による積極的な声掛けの実施②参加者自らの企画や運営の実施（当事者意識の活用）③区長や施設関連の方に協力いただき、徐々に改善していく等の意見発表がありました。

サロンスタッフ研修・交流会を通じて、他のサロンの内容やアイデアが分かり、参考になったこと、また、お互いの苦労や喜びを知り合えたこと、スタッフ同士知り合いになれたこと等、有意義な研修となりました。

発行元　土山地域ご近所福祉推進協議会

メンバー　中島仁史（あずま自主防災会）　坂本正幸（土山町民生委員児童委員協議会）
矢田賢一（土山学区自治振興会）　吉田勇（生活支援ボランティアグループ）
竜王真紀（山内自治振興会）　辻林修（土山町福祉推進員）　水上ひろみ（土山町健康推進員）
田中彼子（土山地域市民センター）　図司直子（土山地域包括支援センター）　※順不同

ニコリちゃん

【お問い合わせ先】甲賀市社会福祉協議会　土山地域福祉活動センター
Tel 0748-66-2001　Fax0748-66-2004　〒528-0211　甲賀市土山町北土山2058

高齢者サロンの実態
ヒアリング結果に注目

高齢になっても元気で生きがいを持ち、身近な地域で〝人と人とのつながり〟を深めることが重要です。何らかの形で地域や近隣の人との接点をもつことで〝ふれあい〟が生まれ、この積み重ねで「地域における支え合い」ができると思います。

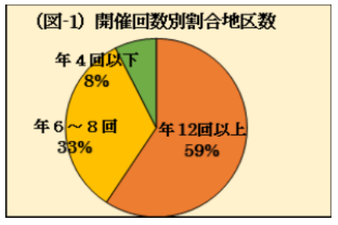
今回調査したのは、フォーラムのメインテーマ「居場所」のひとつ、高齢者の「ふれあいいきいきサロン」です。当協議会では、土山町内における高齢者サロンの実施状況や課題などの実態を調査しました。

＊＊　実施状況　＊＊

高齢者サロン活動は、大野市場区で平成17年に始まり、20年度からは多くの地区に広がりました。土山地域44区・自治会のう33区・自治会で開催されています。

しかし、サロン運営の担い手がいないなどの理由で、最近休止している地区が5か所、最初から開催されていない地区が6か所あります。

なお、約60％と多くの地区では月1回以上開催されています。（図-1）



＊＊　参加状況　＊＊

サロンへの参加対象は主に75歳以上となっており、その方たちの参加率は約35％とまだまだ少ないです。今後は出てこられない方や参加されない方への見守りや呼びかけ、誘い合わせが必要です。（表-1）

（表-1）ふれあいサロンへの参加状況

65歳以上	75歳以上	参加者	参加者率
2,603人	1,351人	469人	34.7%
土山町人口	7,526人（高齢化率34.6%）		前年比△140人

H30.10.1現在

＊＊　サロンの運営＊＊

サロンを運営するために、次表のとおり民生児童委員・福祉推進員等の方々に担い手としてお世話いただいています。（表-2）

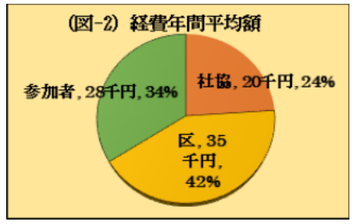
（表-2）サロンの担い手

福祉推進員	25人
民生委員児童委員	24人
区長　ボランティア	12人
健康推進員	8人

平成30年度開催地区27か所

＊＊　年間経費＊＊

運営にあたって、その経費を社協助成金・区負担金で約70％、参加者が約30％負担されています。（図ー2）



＊＊　課題　＊＊

訪問したサロンで、今後の課題をたずねると、次のような意見が多く出ました。

①運営の担い手がいない（後継者へのバトンタッチ）
②プログラムに苦心している
参加者がお客様になりがちなので一緒に考えてほしい
③参加者が固定化してきている
④どの地区でも男性の参加者が少ない
⑤集会所の設備が整っていない（バリアフリー対応）

＝今後も継続して　サロン活動を＝

町内には、専門的知識を有した職員や設備を備えた特別養護老人ホームなどの福祉施設があります。今後ますます高齢化がすすむなか、担い手不足や場所の確保の面でも、施設と地域との交流や連携のためにも、施設等のサロン活動への支援を期待するものです。

今後サロンを継続していくために、地域の役員だけでなく、ボランティアが支援したり、参加する高齢者自身が自主的な活動を行えるように話し合いの場を設けることもひとつだと思います。

フォーラム対談　互助・共助で工夫
防災・役割づくり・担い手づくり

居場所に出て来られない人にも目を配る地域づくり
～災害時を想定して～

楠山さん（西健康福祉会）

3人一組での見守り訪問や、野菜塾で軒下販売も行っており、それにより会話があり、つながりができ、訪問時の様子、気になったこと、困ったこと、ほんの些細な変化をみんなで共有しています。自分たちだけで解決できないことは、見守り会議に出席の専門職の方に相談します。

数年前の台風災害を経験しての気づきとして、日頃の見守り活動が災害時の状況把握にもつながっていて、見守り情報により対応を早くできるのではと思います。

久保さん（西野区健康福祉会）

見守り会議では、マップに一人暮らしや様子が気になる方などをシールで色分けして共有しています。西野の日頃の見守りの仕方は、「そっと見守る」方法です。

平成28年に雪の日が一週間続き、見守りは必要だが、民生委員だけではできないので、近所の人にも協力してもらおうかと、見守り会議が発足したものです。この活動により、日頃からお互いを気にしあう意識が強くなったように思います。

最近は、台風で避難情報が必ず出る。雪の時でもそう、雪かきもできない、雪をかき分けて行かないといけない人もいるので、地域の見守り隊に「見に行ってください」とお願いする体制をとっています。

役割が居場所　自分たちで出来ることを

林さん（おむすびの会）

おむすびの会の活動の居心地の良さは、活動に引退がないことです。都合や体調を優先して無理はしません。一人で決めずにみんなで相談していて、配送後や作ってからの懇談や反省会が楽しく、味付けや食材の利用方法を事前に話し合うことで、スムーズに作っています。収益で研修を兼ねた食事会に行くことも張り合いになっています。

自分自身が楽しむ

前野さん（市場区健康福祉会）

これまでの先輩方が築いてくれた活動を自分もスタッフとしてやらせてもらい「大変だな。」と感じることもありますが、自分が楽しまないと来てくれた人も楽しんでもらえないだろうと思い、楽しむように心がけています。

林さん（おむすびの会）

メンバーが定期的に顔を合わすことで、互いの元気を確認しあっています。調理方法を教え合ったり、家で採れる野菜の美味しい作り方、獣害対策の方法などの知恵を分け合いながら、できるのも楽しいひと時です。

担い手のバトンパス

志藤先生

今後、バトンタッチや仲間を広げていくことについて、何かお考えは？

楠山さん（西健康福祉会）

地域性もあると思いますが、私の地域では60代の人がみんな仕事をし、見守り隊などでボランティアに出てくれる人が不足しています。各組長に現状を把握してもらい、何かあった時には、健康福祉会に連絡していただいてます。

前野さん（市場区健康福祉会）

戦後のベビーブームの方が沢山おられ、まだまだお元気なので、災害になった時にも、避難のお世話などお助けいただけると思っています。消防団などはしっかりしていますが、私もやってみて「こんなことをしてくれているのだ」と感じています。少しでもいろいろな人に関わって経験してもらえると、居場所づくりや防災の大切さがわかってもらえるのではないかと思います。

林さん（おむすびの会）

会のみんながいつまでも元気でとはいきません。そうかといって後継者に入ってもらうのも難しいし入りにくいとも思う。山内学区には他にもグループがあるので、他のグループと日頃から協力しあいながら、山内地域にとって必要な活動を残していきたいと思います。

志藤先生

今やっている活動はそのままではなく、地域に広げていったり、他の活動をやっているところと手をつないだりして、楽しい活動が地域の中で何かしらされていくこと、目指すことを考えたら、仮に自分たちのところの後継者が育っていなくても他のところと手をつないでいきましょうという発想で良いのかなと思います。

地元の振興会などのバックアップ体制も必要ですね。

なぜご近所福祉？
「我が事・丸ごと」
地域共生社会　勉強会
令和元年6月26日

ご近所福祉推進協議会が発足して3年目になります。委員のメンバーは、それぞれの立場で地域の福祉活動に関わっているものが多いのですが、でも、時々出てくる〝地域共生社会〟〝地域包括ケア〟〝我が事丸ごと〟って「いったい？ご近所福祉とどうつながっているの？」といった疑問の声から、ご近所福祉推進協議会のメンバーが勉強会を行いました。

★介護保険制度からのスタート

迫りくる高齢社会に対する社会保障制度としての平成12年の介護保険制度施行が始まりです。しかし、その後、介護認定者の増加、介護保険の給付費は上がり続け、適正な運用、見直しをした制度改正の中で、介護予防と地域での地域包括ケアというキーワードが出てきます。つまり、これまでの介護保険制度や公的なサービスだけでなく、人任せにせず、我が事として地域の互助力（ご近所福祉）を高めることが大切な社会になってきたのです。

★ご近所（近助）から

だれでもができること、それは向こう三軒両隣を大切にすること、あたりまえの田舎の里山文化です。普段の挨拶、「また頼むわな」「助けてや」と言えるつながり作りが大切なんでしょう。このようなご近所がたくさんあることがその地域の宝でもあります。

★地域共生は、支え合う地域づくり

〝地域共生〟とは字のごとく「共に生きる」ということです。地域でボランティア活動をしている方の多くは、「困っている人のために」「認知症の人のために」「障がいを持つ方のために」支え手として活動をされているのですが、活動を通じて「自分たちが高齢者や障がいのある人から元気をもらっている」とか「ものすごい力を持っておられる」と感じることがあるものです。

高齢者の方、認知症の方、障がい者の方をお客様とするのではなく、地域の一員として活動に参加してもらい活躍できる地域づくりが大切です。経済循環の担い手にもなりえます。

★これからの地域社会の在り方

今いる人、今ある資源を活かして、「暮らしやすい町」「住み続けたい町」をつくっていく、産業や福祉など分野・領域を超え、強みを持ち寄って、暮らしにも地域にも豊かさを生む「循環」を生み出していくことが大切です。

「役割を持つ」「参加する」「働く」ことを支え、やらされ感のない地域の担い手を育てていかないければならないと確認し合いました。